

平成 29 年 7 月 9 日（日）、CNS Academy 2017（主催：ヤンセンファーマ株式会社メディカルアフェアーズ本部、場所：東京国際フォーラム）に、院長の北村が参加しました。午前中は統合失調症について、2つの講演がありました。いずれも日本人データを用いた発表で、各種抗精神病薬の製造販売後調査の比較・検討、および抗精神病薬の有効性や認容性に関するネットワークメタ解析でした。欧米からの研究発表とは異なる知見もあり、たいへん示唆に富む内容でした。次にリカバリーに関するシンポジウムが開かれ、統合失調症を持つ患者さんのリカバリーを実現しようとする先進的かつ精力的な試みが発表されました。就労支援の成果発表にとどまらない、細かい問題点や制度上の課題への言及もあり、シンポジストの先生方のバランスのとれた見識に感心しました。

午後は成人期 ADHD の適正な診断と治療について、基調講演と3つの講演を聴講しました。4名の先生方全員が、2015年から2016年に発表された3つのコホート研究（Moffitt TE et al. Am J Psychiatry 2015; Agnew-Blais JC et al. JAMA Psychiatry 2016; Caya A et al. JAMA Psychiatry 2016）に言及されていたことは印象的でした。「成人期になって初めて ADHD 症状を（顕在化させるといふよりむしろ）発症する障害（ADHD？）は存在するのか」という疑問です。神経発達症、ひいては精神疾患とは何か、という深い話につながり得るテーマです。